

私のすすめるこの1冊

中俣 尚己 (国文学科 講師)

『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』

金水 敏 著

マンガ『名探偵コナン』には阿笠博士という発明家が登場します。ちょっとこの阿笠博士が自己紹介をしている場面を想像して見て下さい。きっと、あなたの想像の中の博士は「わし」が阿笠「じゃ」のようにしゃべったのではないのでしょうか。間違っても、「ぼくが阿笠だよ」なんてしゃべらないと思います。(コナン君のものまねでなければ。)

この『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』は、この「わしが博士じゃ」のような、いかにもそのキャラクターが話しそうな言葉遣いについて考察した本です。博士だったら、「～じゃ」、お嬢様だったら「～わよ」、中国人だったら、「～アルよ」というように、物語の役割に応じて言葉遣いが変わるので、こういった言葉遣いを「役割語」といいます。また、「ヴァーチャル日本語」というのは、こういった言葉遣いはフィクションの中にしか現れないことを意味します。京都教育大学には多くの博士号を持った教員がいますが、「この点が大事なのじゃ」というように講義をする教員はいないと思います。(いたら教えて下さい。) また、私は多くの留学生を見てきましたが、「～アルよ」が口癖の中国人留学生は見たことがありません。

これらの現象の指摘だけでも十分に興味深いのですが、本書の優れたところは、その起源を歴史的資料の綿密な調査によって解き明かしていくところにあります。読者は「なぜ博士は西日本

型の言葉を用いるのだろうか?」「なぜ<上司語><老人語>を使わせられる人物は脇役なのか?」といった平易ながらも興味深い問いから出発するのですが、やがて、いつの間にか日本語の歴史を探る旅に出ていることに気づくのです。

日本語についての本は多くありますが、読みやすく、なおかつ学問的な検証にも十分堪えるというものは多くありません。本学の学生全てに自信を持ってお勧めできる一冊です。

実は私も京都教育大学の卒業生であり、4回生の頃にこの本を読みました。当時の私はまだ研究の道を志したばかりでしたが、この本の内容もさることながら、「一見当たり前のことでも深く考えると、不思議なメカニズムが存在する」という研究の姿勢に非常に感銘を受けました。常識を疑うことの大切さと難しさを知りました。(阿笠博士のしゃべり方は、言われてみれば誰もが変だと納得しますが、自分で気づいた方はどれぐらいいるのでしょうか。) 著者の金水敏氏は日本語の歴史的研究で有名な方ですが、「いる」「おる」について考えていく中で、この役割語の存在に気づいたとのことです。そしてそれを「子どもの読むもの」と一蹴せずに、学問にまで昇華したことには敬服するばかりです。

身の回りには、きっとまだまだ不思議なことがいっぱいあるはずです。

図書館からのお知らせ

春季休業に伴う長期貸出について

院生・教職員は1月15日(水)～3月13日(木)、学部生は1月29日(水)～3月27日(木)の期間に借りた図書の返却期限日が、4月11日(金)になります。※視聴覚資料を除く。

リクエストウィークの展示について

2013年10月に実施したリクエストウィークにて購入した図書を、1月8日(水)～1月22日(水)の期間、図書館内で展示します。申込者以外でも借りられますので、ぜひ見に来てください。

ラーニングコモンズに設置しているIPC端末の利用停止について

すでに情報処理センター(IPC)からも連絡のあったとおり、システム更新のためIPC端末を利用できない期間があります。これに伴い、2014年1月6日(月)から2月末日まで、図書館のラーニングコモンズに設置しているIPC端末も利用できません。ご理解とご協力をお願いいたします。

えほんのもり から

今月の読み聞かせ会は **1月20日(月)**
15:00～15:20 です。

『どんなにきみがすきだからあてごらん』

サム・マクブラットニイ文、アニタ・ジェラーム絵、小川 仁央 訳

●おすすめポイント●

“どれだけお互いを好きか”ということで競おうとする二匹のうさぎたち…。

可愛らしくとてもほほえましい本です。

※絵本カードは幼児教育科の学生が作成しています。このほかにも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ児童書コーナーに見に来てください。

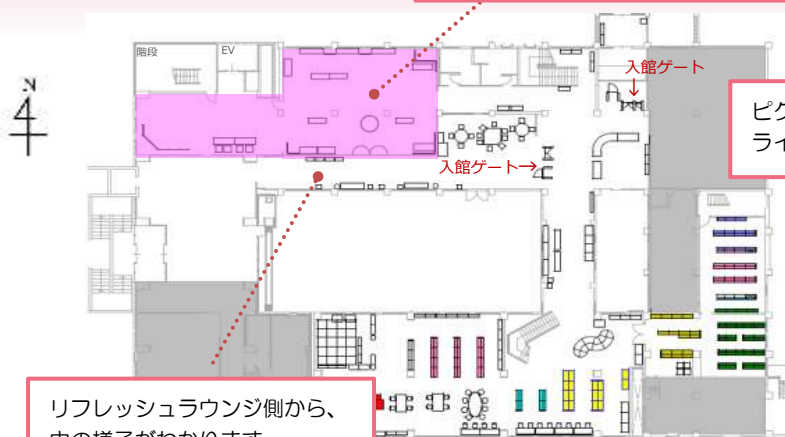


今月の絵本カードは
こちら！

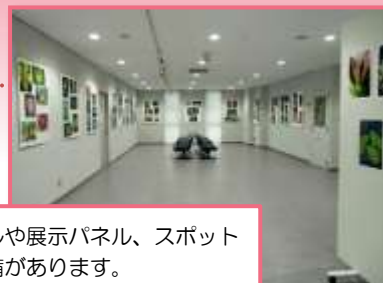
図書館が新しくなりました！～企画展示室編～

今回は、増改修後図書館に新しくできた企画展示室についてご紹介します。

1階にあり、入館ゲートからもアクセス便利！
企画展示室を通り抜けて西館の上階へ上がることもできます。



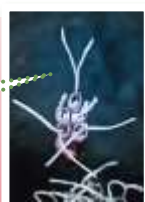
ピクチャーレールや展示パネル、スポットライトなどの設備があります。



リフレッシュラウンジ側から、
中の様子がわかります



なんか面白そうな
ことやってるな～



第2回 写真展 小さな花と実

本学名誉教授である土倉亮一先生の第2回写真展を開催しています。好評につき、展示期間を**2014年1月31日(金)**まで延長いたしました。まだご覧にならない方は、ぜひお越しください。

〈日時〉2014年1月31日(金)まで**開催中!**

9:00-17:00※休館日を除く

〈場所〉附属図書館北館1階 企画展示室



第21回 うたとおはなしの会(報告)



平成 25 年 12 月 14 日 (土) に第 21 回「うたとおはなしの会」が開催された。当日は朝の最低気温が 0 度と厳しい冷え込みとなったが、親子連れを中心に 128 名の来場者で会場は熱気に包まれた。

開会に先立ち、附属図書館長から保護者向けに新設された図書館の利用案内や季節にちなんだお話があった。サンタクロースの由来についてのお話では、最後にクイズがあり、問いかけに元気よく手を挙げて発言する子どもたちの姿が目についた。

そして、オープニングで「赤鼻のトナカイ」を歌いながら、赤いサンタ帽子やトナカイの角を頭につけた学生 3 名が登場すると、会場からは大きな拍手がおこり楽しい会の幕開けとなった。最初の演目の、パネルシアター「ねこのお医者さん」は、ねこのお医者さんが病気の動物たちに「にゃーっ!」と掛け声をかけて、病気を治していくという内容で、日ごろお医者さんが苦手な子どもたちも、お医者さんと動物との楽しいやりとりを引き込まれていた。最後に 5 つ子の赤ちゃんが生まれるシーンではお母さんたちからも歓声と拍手が起こり、演じる学生と会場が一体になってお話を盛り上げることができた。

続く絵本「クリスマスにはおくりもの」(五味太郎さく)は、いつもはプレゼントを配る側のサンタさんにもプレゼントが届くという心温まる話で、今回は各場面合う音楽を電子ピアノで生演奏する演出を加えた。そして、最後に町の人たちが教会で歌う場面では「荒野の果てに」(賛美歌 106 番)をゴスペルサークルの学生が合唱し、美しいハーモニーが会場中に響きわたった。会場がゴスペルのしっとりとした雰囲気にも包まれて絵本のお話が終わると、その余韻が冷めないうちに、「教会の

聖歌隊」に扮したゴスペルサークルの学生が再び登場した。そして、今度は子どもたちも一緒に「きよしこのよる」「シングルベル」「あわてんぼうのサンタクロース」などのクリスマスソングを歌ったり、楽器を鳴らしたりして一足早いクリスマス気分を味わった。参加者からは「歌声がとてもきれいで感動した」「子どもたちも演奏に参加できて、大喜びでした」という感想が多く聞かれた。

そして最後のプログラムでは、子どもたちに人気の絵本「どうぞのいす」(作/香山美子、絵/柿本幸造)を題材に人形劇を上演した。うさぎが作った木の椅子に、ロバ、くま、きつね、リスなどの動物が次々に食べ物を置いていくお話で、動物が美味しそうに食べ物を食べるたびに、子どもたちは身を乗り出して動物たちの動きに見入っていた。特に 10 匹のリスが歌いながら登場し、きつねが置いていったパンを食べるシーンでは一緒に身体をはずませたり、声をあげて笑うなど、お話の世界に入り込んでいる子どもたちの姿が多く見られた。

人形劇が終わると幼児教育専攻 1 回生 10 名がトーンチャイムで「サンタが街にやってくる」を演奏し再びクリスマスモードを盛り上げた。終了後は、学生が毛糸で編んだクリスマスリースのプレゼントを受け取り、人形たちと握手を交わしたりしながら会の余韻を楽しむ親子の姿が多く見られた。参加者からは「子どもはもちろん、私も妻もとても楽しめました。」(2 歳男児の父)、「すごくたのしかった。いろんなことやってくれて、ほんとにありがとう」(6 歳女児)、「最後まで子どもの興味をひきつける内容でした。娘が皆さんのような先生に出会えたら…と思います。」(1 歳女児の母)など、好意的な感想が多く寄せられた。

「心に響くうたやおはなし」を届けることを心がけて、毎回、学生たちと会を作り上げているが、今回も大勢の参加者に楽しんでもらったことを心から嬉しく思う。最近では遠くから電車を乗り継いで来場される親子も増えてきた。どんな親子にも「来てよかった」と思っただけのよう、一回一回の出会いを大切に、これからも努力を重ねていきたいと考えている。

平井 恭子(幼児教育科 准教授)

今回の執筆者 湯川 夏子 (家政科学科 准教授)

学校給食における食物アレルギー児への対応 - 京都府・市小学校に対する聞き取りより -

湯川 夏子・英 佳那

京都教育大学紀要. 2013, No.123, pp.157-169

東京都調布市の小学校で平成 24 年 12 月、乳製品のアレルギーのあった女兒が給食で死亡するという痛ましい事故がありました。テレビや新聞でも大きく報道され、ご記憶の方も多いかと思えます。実際に、食物アレルギーを持つ児童は学校にどの程度の割合でいるのでしょうか？また学校や自治体では、現在どのような対応をしているのでしょうか？本論文では、京都府や京都市の教育委員会や小学校の栄養教諭の先生への聞き取り調査を行い、食物アレルギー児の実態や給食における対応の実態を明らかにしました。

その結果、調査校すべてに食物アレルギー児が在籍し、その数は平均 3.3%。すなわち、クラスに 1 名～数名アレルギー児が存在していました。アレルギーの種類は卵、牛乳・乳製品が主ですが、えびやかになどの甲殻類やごま、小麦、ナッツ類、果物など多岐にわたっています。アレルギーの対応については、先進的な取り組みのある自治体もみられましたが、緊急時の対応も含め、一般的に十分な体制がとられていないのが現状でした。

調布市教育委員会の検証委員会は、給食におけるアレルギー除去食の提供方法と、緊急時の対応という二つの大きな問題があったと指摘しています。本論文でも、①実態把握の徹底②アレルギー対応のマニュアル化と校内体制の確立③食物アレルギーに対する啓発活動が課題として挙げられました。なお、この調査は事故の前年に調査をおこなったものであり、今回の事故を機にアレルギー対応の見直しは国レベルで進みつつあります。しかし、各クラスに 1 名以上食物アレルギー児が存在するのが現状です。教員 1 人 1 人が十分な知識を持つておくことが大切です。大学の教員養成課程においても、食物アレルギーに関する学習を充実していく必要があると実感しています。教職を志すみなさんに、この論文を読んでいただき、食物アレルギーの対応について理解を深めていただければ幸いです。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 123 号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/> にも公開予定です。

●京都教育大学附属図書館ホームページ <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページ <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm> QRコード→



開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2014年1月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1/6 授業再開

1/18-1/19 大学入試センター試験

2014年2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

2/4-2/10 後期末試験

2/14-15 システムリブレース

2/25-2/26 前期入試

1月17日(金)は授業休止日のため17時閉館です。

京教図書館 News No.160 (2014 年 1 月号)

発行日:平成 26 年 1 月 6 日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp